

長畝ふるさと通信



【2023年7月号】

■ 猛暑お見舞い申し上げます

梅雨が明けると同時に連日の猛暑。田んぼの稲たちもこの暑さに耐えながら、もうすぐ出穂を迎えます。暑さのピークは7月下旬から8月初旬だそうですが、この暑さに耐えることができるか…心配です。



それにしても地球温暖化による異常気象は年々激しさを増すばかりです。線状降水帯とかでたった1日の間に1ヶ月分の雨が降って洪水になるかと思えば、一方では連日40度近い酷暑で多くの熱中症患者が救急搬送されてみたり…農業生産への影響も深刻な状態です。

最近「ネイチャーポジティブ」という単語を覚えました。人類は近代化のために地球の環境を搾取し、その結果地球温暖化が加速度的に進みました。そこで「自然や生物多様性の損失に歯止めをかけ、むしろ、環境にもっとポジティブ(プラスの状態)にしていこう」ということらしいのです。生物多様性は地球の生命すべてのシステムを支えており、取り戻していくことがこれからの人類にとっての大きな役割となるのだそう…。佐渡の田んぼって、そういう意味では15年も前から「生きものを育む農法」でネイチャーポジティブしているんですよね。

■ ドローンで穂肥散布実験



ドローンによる穂肥のテスト散布を行いました。30aの田んぼに液肥約14kgを散布するのに要した時間は「たったの3分、2往復半」でした。準備からセッティングに多少の時間はかかりますが、これまでの人力に比べたら圧倒的に早いし、楽ちんです。

8月第1週目に2度目の穂肥散布を人力で行う予定の職員からは一刻も早くドローンを買ってくれと懇願されました。田んぼも空の時代到来です。

■ 夏休み

7月25日、佐渡の小学生達の夏休み初日、キッズ生きもの調査隊で携帯電波も届かない山奥の溪流に「川の生きもの調査」に出かけました。川の水温は14～15度と冷たく、連日酷暑にやられているボクたちにとっては正にオアシス。子供たちも全身ずぶ濡れになりながら夢中で水遊びを堪能していました。そんな中、ただ一人真剣に川魚と向き合う少年が・・・そう、先月号で紹介した「同定のスペシャリスト」君は周りの喧騒には目もくれず、執念でヤマメやヨシノボリを捕獲していました。現在放送中のNHK朝ドラ「らんまん」の主人公とその姿がかぶります。今後も彼から目が離せません。



■ 地球は多様な生命で繋がっている

田んぼや川の生きものたちとかかわってみると、改めて生態系を守ることの大切さを痛感します。ボクたち人間もその中のほんの一部なんだと・・・皆さんも身近なところでネイチャーポジティブしてみてはいかがでしょうか。**おかわりは自由です。**